

《 小林聰史先生(釧路公立大学教授)の講演会(3/13)の概要》

ラムサール条約と湿地の登録について ～吉野川河口域が登録されたらどうなるのか～

小林先生は、1991年から1996年末まで約6年間、スイスにあるラムサール条約事務局でアジア担当官として勤務され、1993年の第5回締約国会議(釧路市)の開催に尽力されました。現在は、日本湿地ネットワーク(JAWAN)アドバイザーや環境省ラムサール条約湿地候補地検討会委員をされていています。



ラムサール条約の正式名称は、『特に水鳥の生息地として国際的に重要な湿地に関する条約』。1971年2月2日、条約が採択されたイランの町の名前をとってラムサール条約と呼ばれています。1960年前頃からヨーロッパでは湿地保全の必要性が認識され始め、湿地保全に向けての国際条約作りが進められました。当時の政治情勢からソ連案とオランダ案の妥協案として、「国境に関係なく渡りをする水鳥の生息地として国際的に重要な湿地及びそこに生息・生育する動植物の保全を促し、湿地の賢明な利用を進める」と目的とする現在の条約になりました。当初は、水鳥類の生息地としての湿地の保全に重点が置かれていましたが、締結国会議を重ねて、今では広く生態系として重要な湿地の保全を目指しています。

日本は1980年に条約に加盟し、釧路湿原が国内最初に登録されました。現在の登録湿地は46カ所です。

ラムサール条約による湿地は、「天然か人工か、永続的か一時的か、淡水か汽水か塩水かを問わず、水田や地下水、低潮時の水深6mを超えない海域」で、広く、サンゴ礁やマングローブ林、藻場、カルスト台地の地下水系、遊水地も湿地です。

日本での登録条件は、①国際的に重要な湿地であること(国際的な基準のうちいづれかに該当すること) ②国の法律(自然公園法、鳥獣保護法など)により、将来にわたって、自然環境の保全が図られること ③地元住民などから登録への賛意が得られることです。しかし、ラムサール条約の条文では、登録湿地にかかわらず重要な湿地は保護区を設けるとし、それをどう保護するかということには言及していません。むしろ、湿地に厳格な保護区を設定し規制するより、自然と共生する湿地の「賢明な利用」(ワイスユース)を促しています。

つまり、ラムサール条約の基本原則は、湿地の「保全」と「賢明な利用」(ワイスユース)なのです。そして、1996年からラムサール条約が締結した2月2日を「世界湿地の日」と定め、毎年、テーマを決めて世界中でラムサール条約の普及啓発活動が行われています。

ワイスユースの事例として、湿地にちなんだ農水産物や加工品のブランド化、エコツーリズムがあり、観光もワイスユースとして注目されています。湿地の保全・再生が促進された例としては、伝統的な潟の保全活動である「潟普請」を復活させた佐潟(新潟県)、大規模な自然再生事業として河川の再蛇行化を図った釧路湿原(北海道)などがあげられます。莫大な費用を投じてフロリダのエバーグレーズ国立公園の湿地の再生を行ったアメリカ政府は、①人工湿地は自然湿地の代償とはならない。②現存する湿地の保全を最優先すべきで湿地を破壊した後から再生に費用をかけるべきでないと報告しています。

吉野川河口域が登録されたらどうなるのか ①国際的に重要湿地と認められ、みんながハッピーになる。
②国際的なネットワークに加盟することで、同じような問題を抱えている事例を参考にしたり、河口域に特化した専門家たちとつながり、吉野川河口域のワイスユースを考えていける。
③登録を契機に、徳島市や徳島県、あるいは地元の人々が協力して環境保全活動に取り組める。
④登録によって流域の自然が守られれば、漁業などの一次産業にもプラスになる。

(文責:松岡礼子)

変えたくない吉野川

愛媛に生まれ高知を通り、徳島へそぐ四国一の吉野川。

その吉野川の下流で生まれ育った私の生家は、四国縦貫道が吉野川に最も近づいた所にあった。堤防を越えるとすぐに吉野川であった。



子どもの頃は、学校から帰ると釣竿を持って、ハゼなどの魚を釣っていた。

河川敷には、サトウキビが生えていて、のこぎりがまをズボンのポケットに差し込み、周りから見えないように、サトウキビ畑の中央に陣取り、みんなとサトウキビをかじるのが、楽しみだった。

その頃の吉野川は、水量を調整するものもありなく、吉野川も元気だった。台風が通過した翌日など、ものすごい流れで、漁船が上流に向いて、なかなか進まなかった。そんな時、父親と漁船に乗り、流れてくるいろいろな物を拾うのである。材木、出荷前のスイカなどを、山のように拾った。一度は、家が一軒そのまま流れてきて、吉野川大橋に引っ掛かり、轟音と共に壊れたのは、今も忘れない。

それから、父親が、櫓というので、漕ぐ船を買ってくれた。中学生の時だと思う。その船で行ける所は、度々行った。

しかし、遊ぶのはいいが、仕事の手伝いは嫌だったので、高校を卒業すると、吉野川には、あまり近づかなくなってしまった。だが、7年後、父親の後を継いだ。その時は結婚していたが、女房は何も言わなかった。それからは、年がら年中、吉野川に接している。しかし、今度は、「遊びではない。」仕事なのだ。稼がないといけないのだ。接し方が違うな。自分なりに考え、頑張ったつもりだ。



孫も出来、気が付けば、半世紀も同じ風景を見てきた。

ずい分変わったなあ。変わらない物もあるが、少しだけだ。

もうこれ以上変えたくないなあ。ふと思い出す、子どもの頃の風景を、今も忘れない。

川漁師 矢田輝彦

HP:旧 DRAGON PROJECT 『春一番が吹きました!』より転写

第十堰付近の風景 撮影:2007.2.14 中村隆宏氏

～吉野川礼讃 3～

— 吉野川の島々・川中島 —

河野真理

祖母は美馬から脇町へ、母は脇町から徳島へ、私は徳島に住んでいる。それで、小学生のころから、私は徳島本線の列車に乗って穴吹(脇町は吉野川北岸)に行くことがあった。駅名には「島」のつく「牛島」「鴨島」「川嶋」があった。しかし、「島」とは海上に浮かぶ「淡路島」「小豆島」が「島」なのであり、子供心に島のつく地名は不思議なイメージだった。

それは、吉野川の流路の変遷や川の中州の発展形の「島」、正に、川の中州・「川中島」であった。有名な上杉謙信と武田信玄による「川中島の戦い」は、千曲(ちくま)川・犀(さい)川の合流する川の中島での戦いだった。

かつて、大河吉野川には「中鳥島」「舞中島」「善入寺(栗)島」の三つの川中島があった。現在、中鳥は北岸と、舞中は南岸と一体となり、「善入寺島」は無人となっている。

日本最大の川中島、「善入寺島」はかつて 500 戸、3000 人が住まい、神社・学校・私塾まであった。大正 4 年(1915)、国の施策による治水(游水地の確保)のために善入寺の住民は島に住むことを許されず、3000 人が移住させられた哀しい歴史でもあった。

吉野川の中流域(旧麻植郡)より、下流に地名で川を下ってみよう。



- ①三島、②宮島、③三ツ島、④学島、⑤呉島、⑥川島、⑦栗島、⑧上下島、⑨知恵島、⑩鴨島、
⑪牛島、⑫平島、⑬桑島、⑭中島、⑮祖母ヶ島、⑯牛屋島、⑰備前島、⑱北島・・・徳島



早い春に採れる新わかめは春の味わいです。

わかめと言えば鳴門が有名ですが、吉野川河口付近の天然新わかめ。

春の訪れと共に育ったわかめはやわらかくって、海の香りがするんです。

乾燥わかめや塩蔵わかめとはちょっとちがうんよなあ。

さあ、どないして食べようかな、とりあえずさっと湯がいてから、ポン酢で。

旬の味わいはシンプルなのが一番、いくらでも食べられます。

茎もめかぶもいただけます。

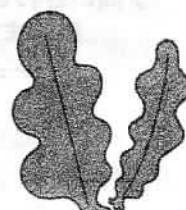
でも、しばらくすると海中でどんどん大きくなって、

かたくなつてあんまりおいしくなってしまう(笑)

ほんの少しの間の春のお楽しみ。今年もおいしくいただきました。また来年。

おいしい吉野川、ご馳走さまでした。

*** にしのさち ***



湿地のグリーンウェイブ2015 イベント情報

in 吉野川河口干潟

●めざせ ラムサール！しおまねきラリー 2015

日時：5月31日(日) 10:00～12:30

場所：吉野川河口・住吉干潟

集合：吉野川河口南岸堤防の東詰(徳島市住吉4丁目)

参加費：おとな 300円・高校生以下 100円

問い合わせ ☎ 088-626-2257

<http://toku-k-g.sakura.ne.jp/>

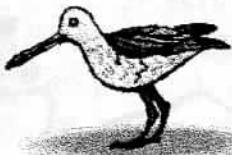
《とくしま自然観察の会&徳島子ども劇場》

◇湿地のグリーンウェイブ◇

『国際生物多様性の日』(5/22)を中心に、世界各国で生物多様性向上キャンペーン「グリーンウェイブ」が開催され、日本でも環境省主催で毎年開催されています。

ラムサールネットワーク日本でも、「湿地のグリーンウェイブ」として独自に参加団体を募り、環境省の「グリーンウェイブ」に参加しています。

吉野川ラムサールネットワークも「湿地のグリーンウェイブ」に参加しています。



署名を提出しました！！！

「世界湿地の日」の2月2日、ネットワークの7人が国交省四国地方整備局徳島河川国道事務所を訪ね、竹島睦所長に皆さまからお預かりした6646筆の「吉野川河口域(汽水域)のラムサール条約登録の実現を求めた」署名と要請書を提出しました。

要請書では、条約を所管する環境省との連携で早期登録に向けた支援をしていただくよう求めています。

後日、環境省へ提出報告をしました。

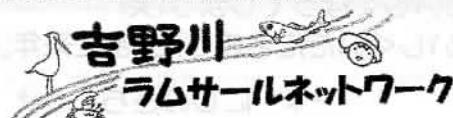
カンバもお願いします♪

☆会員募集中☆

一口：1000円

♪振り込み先：ゆうちょ銀行
01640-6-52973 吉野川ラムサールネットワーク

♪問い合わせ & お申し込み
藤永まで 090-7268-9448



「湿地のグリーンウェイブ」2015 メッセージ

自然と共に生きる

～湿地を守り賢明に利用しよう

in 徳島

●吉野川汽水域を子どもたちの未来へつなげる

吉野川ラムサール展

日時：4月25日(土) 10:00～18:00

26日(日) 10:00～17:00

場所：徳島市シビックセンター・ギャラリーB(徳島駅前アミコビル)

参加費：無料 問い合わせ ☎ 088-623-6783

<http://shiomanekei.info/>

《とくしま自然観察の会 協賛 パタゴニア神戸》

●第2回春の吉野川ウォーキング

『吉野川の気持ちのいい風景を見よう!

～三川合流地点に立つ』

日時：4月29日(水・祝) 9:00～12:00

場所：鮎喰川の弁天橋潜水橋北詰めに集合して

三川合流地点まで歩きます。

参加費：200円(保険代) 問い合わせ ☎ 090-7268-9448

《吉野川ラムサールネットワーク》

●まちと森をつなぐ～里山の風景をつくる会15年展

日時：5月15日(金)～17日(日) 9:30～17:00

場所：徳島県立近代美術館ギャラリー

参加費：無料

《NPO法人 里山の風景をつくる》

●田んぼ探検隊

『田圃を作ろう!』

日時：5月2日(土) 9:00～12:00

場所：武蔵さんの圃場(小松島市大麻町)

『赤腹イモリの生きもの探検』

日時：5月30日(土) 9:00～12:00

場所：北野さんの圃場(小松島市田浦町)

参加費：300円 問い合わせ ☎ 090-7142-0910(近藤)

《NPO法人 里山の風景をつくる》

●善入寺島見学ツアー

日時：5月24日(日) 9:00

場所：善入寺島 集合：川島神社駐車場

参加費：無料 問い合わせ ☎ 090-6280-6270(いぬぶし)

<http://kawanogakko.jp/>

《吉野川シンポジウム実行委員会》

事務局 藤永知子

TEL: 090-7268-9448

Email: taikazann@hotmail.com